

事業所母集団データベース研究会（第10回）議事概要

1 日 時： 平成27年12月2日(水) 14:00 ~ 15:45

2 場 所： 総務省統計局 6階特別会議室

3 議 題： (1) ローリング方式による調査と新たに作成する統計について
(2) 経済センサス - 活動調査中間年における事業所母集団情報整備の方向性
(3) ビジネスレジスターに関する専門家グループ会合出席報告
(4) その他

4 出席者： (構成員) 清水座長、廣松委員、森委員、菅委員
(統計局) 大臣官房審議官(恩給、統計担当)、統計調査部長、統計情報システム課長、
調査企画課長補佐、経済統計課企画官、経済基本構造統計課長、
経済基本構造統計課企画官、経済基本構造統計課調査官
(政策統括官(統計基準担当)付) 統計審査官
(統計センター) 母集団情報システム担当統括統計職
(東京都) 東京都総務局統計部産業統計課長(審議協力者)

5 議事概要

新たに求められる事業所・企業関連統計及びそれに伴う統計調査の見直しについて議論を行い、経済センサス - 活動調査中間年における事業所母集団情報整備の今後の方向性について概ね合意を得た。これについては、今回の議論を踏まえて更新し、次回の研究会においてとりまとめを行う予定。

なお、今後の具体化に当たって必要な検討事項など、議題ごとの概要については以下のとおり。

(1) ローリング方式による調査と新たに作成する統計について

ア ローリング調査について

- ・ 現時点では情報不足ということもあり、賛否を判断する段階ではないと思うが、従来型の調査手法の限界や改革の必要性は十分に認識している。新しい選択肢が示されたことについて積極的に受け止めている。
- ・ 今後は、調査を実施している現場の実情を踏まえて、例えばセキュリティの高いオフィスビル内の事業所を確認する方法など、具体的な実務レベルの問題を1つ1つ解決していく必要がある。
- ・ 調査の経常化についても、従来、市区町村は経常調査を実施していないので、特に丁寧な説明が必要。より効果的な統計を作成するというアウトプットの観点からも理解を求めていく必要がある。
- ・ 調査員の負担軽減の点も含め、今後の詳細な検討・説明が必要。
- ・ ローリング方式の導入は、調査員の熟練の観点からもメリットがあり、調査員の能力向上の結果としてデータベースの精度を一層向上させることになる。

イ 今後新たに作成する事業所・企業関連統計について

- ・ 事業所・企業の開廃状況をタイムリーに把握できるようになることで、より明確に企業の動態が見えてくることになる。これは、我が国の統計分析に非常に大きなインパクトを与えることになるので、積極的に取り組む必要がある。
- ・ ビジネスパターンとビジネスデモグラフィの提供に当たっては、利用者が理解できるような詳しい解説が必要。また、双方の整合性を取ることが難しいので、その点についても工夫が必要。
- ・ 今までにない取組となるので、様々な試行錯誤を経て段階的に精度を高めていくことになるのではないかと。
- ・ 当該年度内における調査未実施地域のデータの補完・推計方法について、十分な検討が必要。

(2) 経済センサス - 活動調査中間年における事業所母集団情報整備の方向性

- ・ 調査対象との信頼関係を築くことが重要であり、プロファイリングを担当する専任職員はできる限り固定化することが望ましいが、人事異動があっても業務に支障が生じないよう、個別の事業所・企業の事情を考慮した情報の引継ぎを行うことや詳細な業務マニュアルを作成することなどが必要。
 - 業務を高度化するための情報システムの構築を予定しているので、その機能の中でしっかりと管理していきたい。
- ・ ローリング方式に関しては、外観からの確認を主体としつつ、従業員の概数や産業の大分類の把握についても検討してはどうか。また、地方公共団体で持っている行政記録や地域の商工会の情報などの活用も考えられる。
 - 新設事業所の従業者数等について、調査票等で把握することも考えられ、今後の具体化の中で検討していくことになる。

(3) ビジネスレジスターに関する専門家グループ会合出席報告

- ・ 統計ビジネスレジスターに関する国際ガイドラインが精緻になってきており、ガイドライン内で使用されている用語が公式となる可能性もあるため、引き続き、理解を深めることが必要。

(4) その他

- ・ 次回は2月3日（水）14時から開催予定。

以上